



## 【韓国】 総合指数は週間で0.7%高と反発、ITセクター企業の業績期待で

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.7%高と反発。指数が過去最高値圏で推移する中、2380ポイント付近が抵抗線になり、小幅な値動きが続いた。19日は世界経済の成長期待を背景に海外勢の安値拾いの買いが入り、上昇スタート。20日はほぼ横ばい。21日は中国本土上場の「A株」がMSCI新興国市場指数への採用が決まったことで、韓国市場から資金が流出するとの懸念が浮上し、相場が押し下げられた。ただ、証券アナリストが「投資家は特にITセクターの企業業績が好調になると期待しており、指数を支え続ける」との見方を示す中、週後半は続伸。23日は終値の過去最高値に接近した。指数が高値圏でもみ合う中、今週も利益確定売りの出やすい環境か。経済指標では27日に6月の消費者信頼感、30日に5月の鉱工業生産が発表される。

▼指数チャート



## 【ロシア】 RTS指数は週間で0.5%安と6週続落、今週は自律反発に期待

### 先週の動き／今週の展望

RTS指数は週間で0.5%安と6週続落。前週に1000ドル割れとなった流れを引き継ぎ、軟調な展開が続いた。週明け19日は、ブレント原油先物が前週末並みの47ドル台で推移したことや前週の利下げが下支えとなり、1000ドルを挟んだ値動き。ただ、21日にブレント原油が44ドル台まで急落すると、指数も下落した。米国が対ロシア経済制裁を追加したのを受け、ロシアが報復手段を検討していると報じられたことも嫌気された。22日には寄り付き直後に958.83ドルまで下値を広げ、昨年11月14日以来の960ドル割れ。しかし、原油相場が22日に下げ止まると、指数も上昇に転じた。23日には場中に991.69ドルまで値を戻し、前日比1.1%高の988.93ドルで取引を終えた。今週はこれまでの下落に対する自律反発に期待。

▼指数チャート



## 【ベトナム】 VN指数は週間で1.0%高と3週続伸、今週は引き続き堅調な推移か

### 先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で1.0%高と3週続伸。週前半はMSCIがベトナムをフロンティア市場から新興国市場に格上げするとの期待で幅広い銘柄が買われ、指数は768ポイント台に上昇した。21日はMSCIが格上げを見送ったことで、一時的に758.90ポイントまで下落。ただ、その後は急速に値を戻し、22日には769.99ポイントまで上昇し、6週連続で2008年2月以来となる高値を更新している。前週まで相場をけん引した銀行株はまちまち。21日に国会で金融機関の不良債権処理に関する決議が承認されたことで、事前に上昇していた銀行株の多くが利益確定売りに押された。一方、下げ止まった原油価格を好感し、石油関連のペトロリメックスが大幅上昇し、指数を押し上げた。高値警戒感はあるが、今週も堅調な展開か。

▼指数チャート





## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.9%高、5800 ポイント台で過去最高値を更新**

ジャカルタ総合指数は 4 日間の取引で 1.9%高と続伸。6 月月間では 1.6%高。先週は上半期末のお化粧品買いが奏功して上値を広げ、4 日続伸と好調だった。週初の 19 日は 3 営業日ぶりに反発。21 日は前日に中央銀行の副総裁が 4-6 月期の GDP 成長率の見通しをわずかに下方修正したが、指数への影響は小さく、終値ベースで初めて 5800 ポイントに到達した。22 日は政府が同日付で、14 年から禁止していた未加工鉱石の輸出を条件付きで再開したことも好感され、2 日連続で過去最高値を更新して 23 日から始まる連休前の取引を終えた。今週は断食明け大祭のため 1 週間を通じて休場。取引再開は 7 月 3 日となる。

### ▼指数チャート



## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%安、今週は 30 日に 5 月の銀行融資残高発表**

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%安と続落。週初に反発したが、その後は振るわなかった。19 日は金融株が買われて 4 営業日ぶりに反発したものの、20 日に反落すると 21 日には場中に一時、3200 ポイントを割り込んだ。22 日は翌日に控えた経済指標発表に対する期待感から反発したが、23 日は 5 月の鉱工業生産が前月比で 3.5%減少したことが嫌気されて売られた。同月の CPI は前年同月比 1.4%上昇し、14 年 6 月以来の高い伸びを示したが補えなかった。今週は 30 日に 5 月の銀行融資残高が発表される予定で、前月に続き過去最高額を更新するかが焦点。26 日はハリラヤプアサ (断食明け祭) の祝日で休場。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.4%高、5 月の輸出額 (通関ベース) は前年同月比 13.2%増**

SET 指数は週間で 0.4%高と続伸。貿易統計の結果を受けた上昇が指数を押し上げた。週初の 19 日は前週末の NY ダウが過去最高値を更新した流れを引き継ぎ続伸。ただ、勢いは続かず 20 日に反落すると、21 日は前日の NY 原油先物市場で価格が値下がりしたことを嫌気して続落。一方、22 日は 5 月の貿易統計 (通関ベース) で輸出が前年同月比 13.2%増と市場予想を大幅に上回ったことが好感されて 3 日ぶりに反発すると、23 日には約 2 カ月半ぶりの高値を更新して引けた。今週は 30 日に 5 月の鉱工業生産と 4 月の小売売上高が発表される予定で、前年同月比の鉱工業生産がプラス圏に回復すれば好材料。

### ▼指数チャート



## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.7%安、5 月の CPI 上昇率は前年同月比 3.9%**

クアラルンプール総合指数は週間で 0.7%安と 5 週ぶりに反落。週初から軟調で後半に買い戻されたが補えなかった。21 日に発表された 5 月の CPI 上昇率は前年同月比 3.9%と、市場予想からやや下振れしたものの、依然として物価上昇圧力が高止まりしていることが嫌気された。その後は値ごろ感のある銘柄が買われ、週末まで続伸して終了した。今週は国内の重要イベントが少なく、原油価格の動向など外部要因に左右される展開か。中期的には、MSCI が中国本土 A 株を来年から新興国市場指数に組み入れると決めたことによる中国への資金流出が懸念される。26-27 日はハリラヤプアサの祝日で休場。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。